

令和 4年度 園評価書

園番号

2 園名 安倍口こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A :よくできている B :概ねできている, C :あまりできていない, D :できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策
たくましい子	気づき・くりかえし・試してみよう!	<ul style="list-style-type: none"> 五感を働かせて遊ぶ中で、いろいろな発見をしている 気づいたことや、やってみたくを自分なりに表現している 自分の考えたことを、あきらめずに最後までやり遂げ達成感を味わう姿がある 	<ul style="list-style-type: none"> その時期ならではの行事や自然物に興味をもち、気づきや発見を友達や保育者に伝えたり、不思議に思うことなどを「どうしてかな?」と考える姿が見られた。 〇感触を味わい、見たり嗅いだりして遊ぶ中で、音・色・形・感触など様々な違いに気づき遊ぶ姿が見られた。 〇「〇〇してみるのはどう?」など友達や保育者に伝えたい思いがあり、自分なりの言葉で伝えていた。 〇「いいこと考えた」と思いを伝えながら、遊ぶ姿があった。 〇自分で考えたこと、やってみたくを繰り返し遊ぶ姿が見られる。できた時には友達に伝えて喜んでた。 〇こうしたいという思いをもち、異年齢の姿に刺激を受けたり、保育者に褒められることでもう一度挑戦しようという姿につながっていた。 〇一人では上手いかず、泣いたり怒ったりする姿が見られるようになった。葛藤する姿を受け止めながら一緒に取り組んでいた。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 五感を働かせていろいろな経験ができています。 「いいこと考えた」の「いいこと」の抽象的な内容を保育者が友達に具体的に伝えるようにし、価値づけして子どもにまた返していくといい。 行事の取り組みにストーリー性がある。その中で子どもが気づき、よく考えている 子どもの思いを尊重して保育している 葛藤を成長のきっかけと捉え、タイミングよく声掛けをすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、季節に合った物や発達に応じた事を考えながら、子どもの思いが遊びにつながる環境を整える。 〇指導計画に子どもの予想される遊びを具体的に記入し、見直しを持って関わりや環境を考えていく。 〇学年や個々の経験の違いによって、思いの表現の仕方が異なるため、職員間で実態を共有し、「その子らしさ」を受け止めていく。 〇子どもたちの「やってみたく」「こうしてみたく」「もう1回」の思いをつなげるために、保育者と一緒に取り組んだり、スモールステップで子どもが取り組みやすくしていく。

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢で関わり合う中でも、子どもの発達や経験を十分に把握し一人一人に合わせた適切な援助を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 〇一人一人のやりたいことが実現できるように環境を準備し、お互いの遊びが見えるようにもした。それぞれの遊びに誘い合う姿が見られた。 〇指導計画で学年の発達や押さえて共通理解したり、保育の振り返りで子どもの実態や支援の仕方を具体的に確認したりして援助につなげた。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 大事にすべきは子どもも理解。子どもも理解ができているから何がやりたいのか、思いに寄り添った環境があり、支援ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇指導計画検討で「幼児期にそだてほしい10の姿」につながる各年齢に応じた育ちと経験させたい内容について明確に押さえていく。 〇次年度に向けて実態や手立てを確認する。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生活リズムを理解し、穏やかな気持ちで生活できるように子どもの気持ちに寄り添っている 	<ul style="list-style-type: none"> 〇休み明け、週末は疲れが出やすいため、一人ひとりの様子をみながらかわり、安心して遊べるようにした。 〇各家庭の状況や個々の生活リズムを把握しながら、丁寧にかかわった。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 声掛けが多いとのことだが、くじけそうな時に、「もうちよっ!」「がんばれ」「いいよ、いいよ」など、子ども一人一人に合った声掛けも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇保育者が見通しをもち、余裕をもって子どもに接することができるようにする。 〇子どもの様子など共有しながら、一人ひとりが安心して過ごせる環境作り、かわり方を継続する。 〇保育者の声掛けが多くなりすぎないように心掛ける。 〇翌日の遊びについて話し合っていたが、週の活動の見直しもできるように、毎週木曜日に翌週の活動について話し合い、各クラスの動きを把握していく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> 「こう思う」「もう1回!」と思った時に考えたり、試したりできる環境が用意されている 	<ul style="list-style-type: none"> 〇子どもがやりたいことや遊びを予想して、環境を整えている。一緒に必要な物を考え、準備したり、職員間で検討し環境を工夫したりした。 ●「もう1回」と子どもを励まそうと声掛けが多くなりました。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育者も環境の一つ。信頼関係の上に、励みになる一言が心に響く。 ・何とかしよう、完成させようとせず、タイミングをみて声をかける。 ・保育者の引き出しを増やすことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇保育者が見通しをもち、余裕をもって子どもに接することができるようにする。 〇子どもの様子など共有しながら、一人ひとりが安心して過ごせる環境作り、かわり方を継続する。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面を想定しての避難、不審者訓練を行い、緊急時の身の守り方を身につけるよう指導している ・ヒヤリハット、ケガの分析を行い、事故防止につなげている 	<ul style="list-style-type: none"> 〇毎日の打ち合わせでヒヤリハットを確認し、対策や子どもの姿の共有に努めた。 〇毎月の避難訓練で気づいたことをその場や、事後の反省で確認し、次に活かしていった。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保育者も環境の一つ。信頼関係の上に、励みになる一言が心に響く。 ・何とかしよう、完成させようとせず、タイミングをみて声をかける。 ・保育者の引き出しを増やすことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇ヒヤリハットについて、引き続き声に出してすぐに対応していく。
	(1)健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝早起き朝ごはん朝うんち」の生活習慣が身につくよう、子どもや保護者に定期的に発信している 	<ul style="list-style-type: none"> 〇食育の会(毎月1回)にて食に関する情報を子どもに分かりやすく伝えたり、食や身体のことを考える機会となるようにしてきた。 〇絵本やがんばりカードの利用、毎日の給食時の話なども行い、子どもの会話に赤キッズなどが出てきている。カードや手紙を通して保護者にも発信した。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと石拾いをするなど普段の生活の中で安全意識を高めるようにする。 ・早起きが大事。健康で過ごそうという意識を幼児期から育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇栽培物を食するところまで考えて選定し、食育と結びつけていく。 〇「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」の大切さを工夫して発信する。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもに合った支援計画を立て、毎月見直したり、外部研修で学んだことを活かしながら全職員で共通理解をもち適切な支援している 	<ul style="list-style-type: none"> 〇子どもの姿からスモールステップで支援計画を作成し、かかわった。 〇ケース会議や振り返りの時間に、支援計画や手立てを職員間で共有し、保育に活かしていた。 〇外部研修で子どもの困り感について学び、かわり方を工夫することができた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 環境調整はどの子にとっても学びやすいものとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇発達の様子を共有しながら今後の支援の仕方を話し合い、同じ支援ができるようにする。 〇校長先生(安倍口小)による特別支援研修を計画する。
	(1)組織体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 責任をもって分掌に取り組み、連携しながら、チームで保育を進めると意識をもっている 	<ul style="list-style-type: none"> 〇業務内容を確認し、協力したり、取り組める時間を確保したりして進んでいた。 ●大きな行事(スタッフフェスタ・ハロウィン・運動会・にこにこ劇場)について、進行状況の確認が上手くいかなかった。 ●分掌内容の精選をし、取り組みやすく見直しが必要と感じた。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザインの「目標・内容・方向性・努力点」を理解して行事を進めることが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇計画表を作成して、進行状況をわかるようにする。(職員室に張り出す) 〇分掌の内容の見直しをする。
6 研修	(1)研修体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研修テーマ(「こうしてみよう!」「もう1回やってみよう!」)という思いを繋げる環境の工夫に沿って保育を行い、具体的な手立てについて振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 〇研修の手立てに沿って子どもの思いや興味を探り、環境について振り返りを行い、翌日の保育につなげた。 〇手立てを意識しながら、子どもと関わったり、月案・週日案を考えていた。 〇日々の振り返りや研究保育、学期ごとの反省から成果と課題を明確にし、保育に活かせるようにした。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「私の分掌はこれ」ではなく、連携を大事にする。 ・時代が変わり先生のやるが増えている。一人が抱えている量、内容の見直しをしてパンクしないようにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇今年の成果と課題から、研修テーマや手立てを見直し取り組む。
	(1)教育・保育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が伸び伸び遊べる安心、安全な環境が整えられている ・季節に合った遊びや発達に必要な体験ができる環境が用意されている 	<ul style="list-style-type: none"> 〇個々のやりたいことが遊びにつながる環境を工夫したり、その時期ならではの体験ができる環境を作ったりした。 〇トイレの前の壁面を利用して、季節や行事に関する投げかけをし、環境を整えて取り組んだ。 ●戸外・室内共に同じ思いで遊びが楽しめるような環境の工夫が必要と感じた。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「おたよりから子どもの育つ力を見つけて、次にどうしていこうかが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇室内の環境についても、振り返りや指導計画検討、週の打ち合わせの時に確認していく。(物の配置、分量など)
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> 園便りや毎日のボードで視覚的に園での取り組みや子どもの成長を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 〇日々の遊びや行事への取り組みの過程・子どもの気づきなどを、保護者と共有できるように写真を使って毎日発行の便りを作成した。 〇降園時に便りを見せながら、今日の様子をポイントを絞って伝えた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> おたよりから子どもの育つ力を見つけて、次にどうしていこうかが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇引き続き、10の姿を意識して作成していく。
	(1)近隣の園との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小学校やこども園と交流したり、公開保育を行い情報交換をし、連携を図る ・小学校の教材や資料を借りて保育に活かす 	<ul style="list-style-type: none"> 〇小学校の教材・教具を見せてもらい、借りて保育に活用することができた。 〇運動場・プール・図書室・保健室・トイレなどを使用したり見せてもらったりして、繰り返し行くことで学校を身近に感じることができた。 〇安倍口中央こども園と一緒に運動会・サークル教室・シルエット観劇・小学校訪問を行い、今年度はお互いに行き来して遊ぶことができ、交流が深まった。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 合同運動会は子どもの目がキラキラしていた。喜びが全身から出ていた。 ・大勢に見られる経験が大事。交流を今後もぜひしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇今年度のように、年間で計画的に小学校との交流を図っていく。 〇近隣園との交流も、積極的に行っていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の様々な人との交流を通し、園ではできない経験をする ・安倍口中央こども園と連携一緒に行事を行ったり一緒に遊んだりする 	<ul style="list-style-type: none"> 〇地域の老人会(内宮・安倍口)・楽寿の園などと定期的交流「楽しみにしているのよ」と声をかけていただいた。人前で話したり、歌ったりするいい体験にもなった。 〇安倍口中央こども園の玩具や道具に興味をもち、繰り返し楽しんで遊んだ。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 人前で話す機会は少人数だからこそみんな経験することができる。成長につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇無理なく取り組めるように、交流の仕方を話し合っていく。